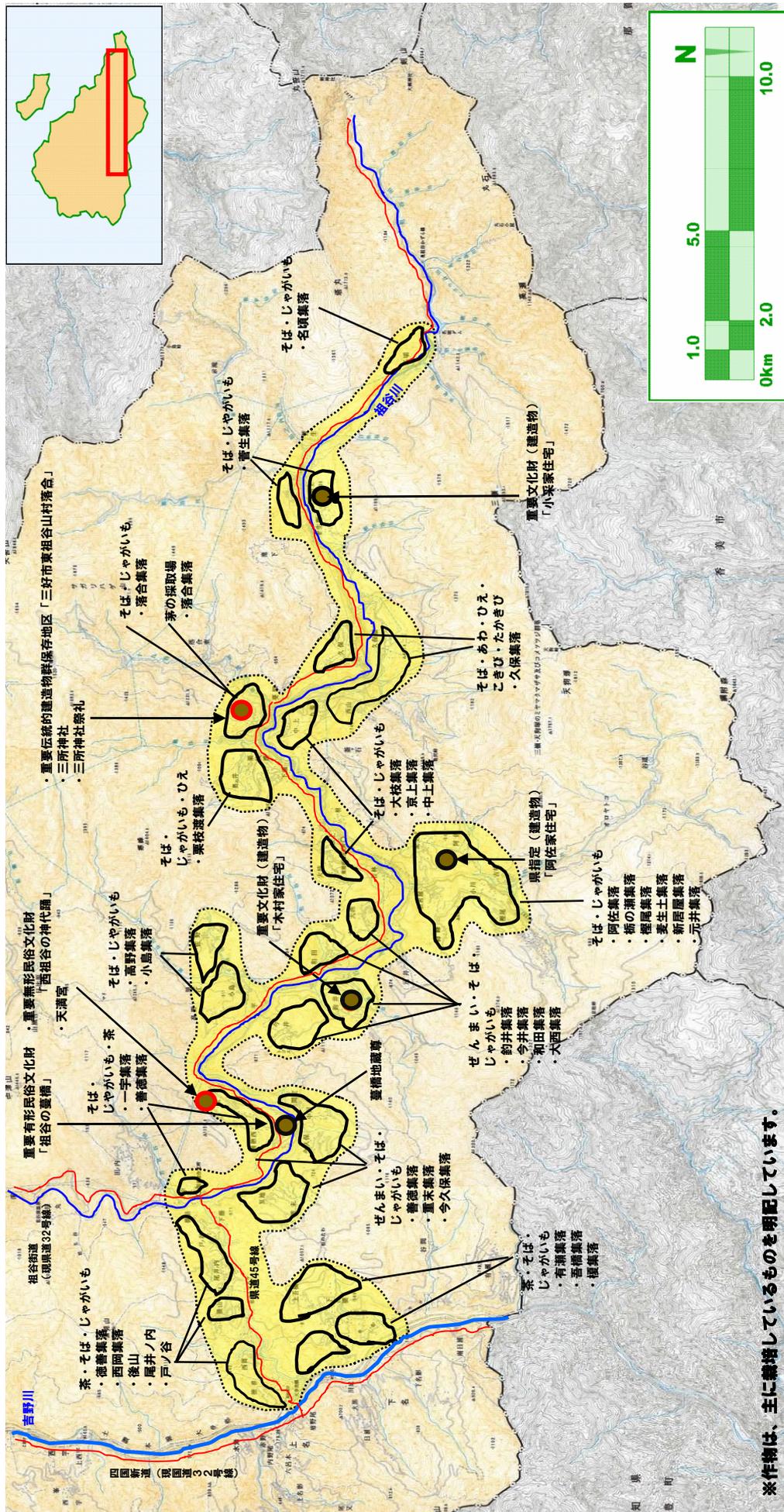


吉野川支流祖谷川流域に残る歴史的風致（祖谷）  
 ・風致エリアは、東西祖谷の各集落と農業地帯及び点在する文化財を包括した範囲とする。

- ⋯ : 歴史的風致エリア
- : 山村集落エリア
- : 歴史的建造物
- : 主要祭礼



※作物は、主に栽培しているものを表記しています。

## コラム【祖谷の職人】

### ●木地師

木地師とは「ろくろ」を使って木材を削り、鉢や皿、碗、盆などの木製品を作る人たちで、山中に原材を求めて、山から山へと渡り歩いた山人たちである。木地師は木地物素材が豊富に取れる場所を転々としながら木地挽きをし、里の人や漆掻き、塗師と交易をして生計を立てていた。中には移動生活をやめ集落を作り焼畑耕作と木地挽きで生計を立てる人々もいた。そうした集落は移動する木地師達の拠点ともなった。

幕末には木地師は東北から宮崎までの範囲に7,000戸ほどいたと言われ、明治中期までは美濃を中心に全国各地で木地師達が良質な材木を求めて20～30年単位で山中を移住していたという。

祖谷山における木地師の存在は、鎌倉時代からという伝承があるが、史料としては、宝暦9年(1795)の『祖谷山旧記』所載徳善氏所蔵文書のうち、正平11年(1356)のものに「ろくろしの内下名分徳善の治部亮為知行」という記述がある。「ろくろし(轆轤師)」とは、西祖谷山村西岡近辺をさし、現行の地図でも「轆轤師」と記載されている。これが轆轤細工を業とする木地師にちなむ命名であったとすれば、国見山周辺の樹林から材料を採取していた木地師の集落が、すでに南北朝時代に存在したということになる。

また、『君ヶ畑氏子狩帳』には、宝暦9年(1759)以来、明治5年(1872)までに、祖谷山では、延べ人数125人が記されており、深淵17、落合22、久保13、菅生16、名頃17を数えることができる。

現在は存在しないが、木地師の伝統技術は昭和初期まで祖谷地方に伝わり、東祖谷には水車を利用した最初の「ろくろ工場」があった。仕上げ品は池田まで荷馬車に積み、池田駅で貨車に乗せ、愛媛県の漆器問屋等へ送っていたという。



■資料：『東祖谷落合伝統的建造物群保存対策調査報告書』より)

## 2 吉野川上流域に残る歴史的風致（大歩危小歩危）

### ①地域の歴史

吉野川は愛媛県と高知県に境する石鎚山系・瓶ヶ森を源流とし、高知県土佐郡大川村、長岡郡本山町を経て大豊町まで東流して高知・徳島の県境近くで北に折れて本県三好市に入っている。この三好市域に入ったあたりから吉野川の流れは四国山脈の山々を南から北へ掘り下げて大横谷を作り、この横谷の中心に大歩危・小歩危がある。

大歩危と小歩危は現在では「地名」あるいは「地域名」として認識されているが、本来は地名というより「ハキ・ハケ・カケ・ガケ」などと同様に、切り立った崖を表す自然地形名称「ホケ」が地名化したものである。

その存在はかなり古くから知られていたように、寛永8年（1631）の『元親記』中巻にも、長曾我部軍の阿波進入経路の軍議のなかで、阿波境の上名を過ぎたところに「西宇のほけとて三里の大難所有り」と記されている。また文化12年（1815）の『阿波志』には、上流から「按察嶂（杵）」、下名・上名・西宇を「三名嶂（杵）」、白川の西を「小嶂（杵）」と称するとしており、難所として「左坂、空穂、犬返り、泣聖（ヒリカセ）、鋸齒（カノハ）」などが挙げられている。

ただし、明確に大歩危・小歩危の呼称が記されているのは文化8年（1811）刊の『阿波名所図会』上の「小ホケ大ホケ」、文政8年（1825）の『祖谷山日記』に記す、白川より上流を「小ほけ・大ほけ・大鋸の刃坂・聖泣せ、などいへる難所にかかる」、藤川谷が「大ほけのをはりなり」などである。

現行の漢字が宛てられているのは、江戸後期後半のものと思われる『三好郡三名大絵図』であり、「大歩怪入口」「大歩怪出口」「小歩怪入口」「小歩怪出口」との記載であり、「崖」「難所」といった自然地形による名称が「危険な道」との印象による表記が定着していったものと推測される。

「景勝地」としての大歩危・小歩危が世に知られ、人々が関心を持ち話題となる方向性、きっかけになるようになったこと背景には、「三好新道」あるいは「四国新道」と呼ばれた国道の開通にあった。

「四国新道」とは、香川・徳島・高知の3県を結ぶ道であり、徳島県側では明治19年春から工事が始まり、「三好新道」約45キロが明治23年にまず香川県と通じた。その後、明治25頃には高知県と開通した。

その後、明治41年発行、徳島県で最初の写真入りの名勝ガイド本の『阿波名勝案内』で掲載され、広く宣伝された。

しかし、昭和25年（1950）に吉野川総合開発計画が策定され、小歩危にダム建設計画が立てられた。ダムが建設されれば、景勝地「大歩危小歩危」は水没することになる。それに地元住民は激しく反対し、ダム建設は中止された。

これにより県下名勝の地となり、観光地としても成立し、平成26年（2014）には大歩危が天然記念物、平成30年（2018）には小歩危も追加指定された。

■大歩危小歩危の位置図



## ②-1 岩本神社

交通安全の神社である岩本神社は、『山城町伝承・伝説ガイドブック』（平成18年発行）によると建立年代は、天文10年（1541）とある。しかし、聞き取りによると現存の拝殿は昭和60年代に建替えが行われている。本殿は、龍の彫刻や建築工法から明治後期から大正頃の建築と思われる。また手水舎の銘文から少なくとも大正6年には建立していたと考えられる。

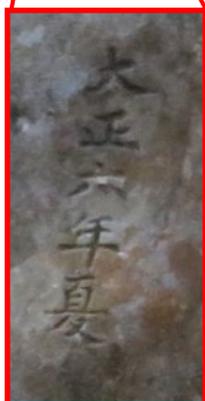
建築形式は、拝殿は平入りで屋根は入母屋寄棟造り銅板葺きである。本殿は、平入りで屋根は日本の神社で最も多く見られる切妻の流造である。



■岩本神社の参道



■拝殿



■手水舎には、大正6年夏の刻印が見られる



■本殿

## ②-2 地藏菩薩

景勝地である大歩危小歩危は、「ホケ」とも言われていたことから、交通の難所でもあった。そのため、通行人の安全を祈願するため国道32号線（旧四国新道）には多くの地藏菩薩が建立されている。

建立年代は、地藏菩薩の多くに昭和初期の銘文が見られ、歴史的風致範囲の3km内の4体の地藏菩薩も昭和初期の銘文が見られる。尚、多くの地藏菩薩が道路がカーブに差し掛かる場所に建立されているのが特徴である。



■国道32号線と地藏菩薩



■昭和13年9月建立



■平成28年5月再建



■昭和18年2月建立

### 【まとめ】 大歩危小歩危に残る歴史的建造物

吉野川の中流域にある大歩危小歩危は、高知県の国境に位置する要所であり、険しい山々がそそり立つ秘境の地であった。こうした地に明治の「四国新道」事業により現在の国道32号線が開通した。

大歩危小歩危の「歩危」は、切り立った崖を表す自然地形名称「ホケ」が地名化し、自然地形による名称が「危険な道」という印象が定着したことから、現在の漢字が使われたと云われる。

道路開通後も、通行するのには難所であったことを示すものとして、道路沿いには多くの地藏菩薩が建立されている。また大歩危には交通安全の神を祀る神社も建立されており、四国新道が開通した当時のままの歴史的風致が形成されている。

### ③大歩危小歩危に見られる活動

#### ③-1 舟下りと三好新道

舟下りは『山城谷村史』（昭和34年発行）によると、明治24年から25年頃の「四国新道」（現国道32号線）の開通に伴い宿屋兼飲食店を始めた大平氏が一艘の舟を仕立てウナギの漁を始め、朝夕に吉野川を上下する内に、その景観に心をうたれ、宿泊客を舟に乗せて大歩危を見せ、喜ばせたのが始まりであると記されている。

その後、鉄道の開通により「大歩危小歩危」を広く宣伝し、観光事業を積極的に進め大歩危は「県立公園」となり、次いで「剣山国定公園」に編入された。

舟下りで見られる景色は、四季折々の景色が望めるほか、長い年月をかけて川の流れによって削られた岩肌が間近で見られることで、徐々に多くの観光客で賑わうこととなり、舟は次第に大型化し、現在では30人余りを乗せるようにまでなった。

また、一方では土佐と阿波を往来する通行路であった大歩危小歩危は通行の難所であったため、往路する通行人の安全祈願のため交通安全の神として「岩本神社」や「地藏菩薩」が建立され、神社では、毎年10月12日に地元住民による安全祈願を行う神事や清掃活動が行われ、また地藏菩薩は地元住民による安全祈願が日々行われている。

明治時代以降は、河岸に道路や鉄道が開通したことから『阿波名勝案内』（明治41年発行）により観光地としても認知度が高り、昭和2年には小歩危とあわせて「日本百景」（大阪毎日新聞社、東京日日新聞社選定）に選ばれるなどして親しまれ、日本を代表する景勝地となった。



■『阿波名勝案内』（明治41年発行）で紹介されている大歩危小歩危と遊覧船



■現在の大歩危小歩危の遊覧船



■岩本神社の清掃活動



■地藏菩薩に安全祈願する住民

#### ④吉野川上流域に残る歴史的風致（大歩危小歩危）のまとめ



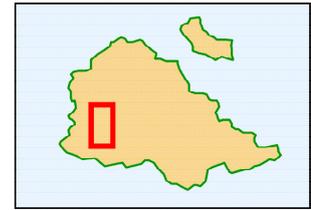
明治24年から25年の工事にて開通した「四国新道」（現国道32号線）の開通により、道路から見える「大歩危小歩危」の景色は景勝地と呼ぶにふさわしく、大歩危小歩危峡を舟下りで観賞するようになってからは、観光地として広く認知されていった。

その一方で、その昔から「危険な道」として定着化していた大歩危小歩危には、住民や通行人の安全を祈願する岩本神社や、多くの地藏菩薩が建立され信仰されている。

こうした大歩危小歩危には、自然環境と住民の営みが一体になった歴史的風致が形成されている。

■吉野川上流域に残る歴史的風致（大歩危小歩危）

・風致エリアは、景勝地「大歩危」を遊覧する舟下りと、大歩危小歩危を通る旧四国新道を往路する通行人の安全を見守る「岩本神社」や「地藏菩薩」を含む範囲とする。



■ : 歴史的風致エリア

● : 歴史的建造物



## コラム【大歩危の妖怪】

### 妖怪伝説

山城町は、<sup>あわ とさ いよ</sup>阿波、土佐、伊予の国境に位置する要所であったため、古くから国境警備にあたる山岳武士が住み着いていた。

険しい山々がそそり立つ日本有数の秘境であり、平地がほとんどなく、地すべりが多発する地域であったため、自然の厳しさと隣合わせ、かつ国境を越えて様々な人々が行き来していたこともあり、危険な場所であることを伝えるための「生活の知恵」として、この地域には数多くの妖怪伝説が語り継がれてきた。

こうした妖怪伝説を保存団体が地域おこしのために、活用し活動することとなった。その活動の中で、山城町が水木しげるの漫画で有名な「児啼爺」<sup>こなきじい</sup>の発祥の地であり、他にも150以上の妖怪伝説が残っていることが分かった。

これを機に、平成12年から毎年11月には「妖怪まつり」が行われようになり、1000人以上の観光客が訪れるようになった。その後、「山城・大歩危妖怪村」が結成された。そして、山城町が世界妖怪協会から平成20年（2008）「怪遺産」に認定された。

かつては「妖怪」は、各地にいたが都市化や交通網の整備が進む中で、次第に消えて行ってしまった。しかし、厳しい自然とともに生活してきた山城の人々によって語り継がれた妖怪たちは、今もこの地で実体のある存在として生き続けている。



■山城大歩危妖怪村の妖怪たち



■妖怪まつりの様子

### 3 吉野支流馬路川に残る歴史的風致（池田町佐野）

#### ①地域の歴史

池田町佐野は三好市の北西端に位置し、西は愛媛県、北は香川県に接する地域である。

愛媛県境の境目峠、香川県境の曼陀峠の喉首とも言える地域であり、地内中央を伊予街道が通る国境の要衝である。延文3年（1358）ごろの『神道集』では、四国の中心にある「白人城」として紹介され、近世初頭には、長曾我部元親による四国制圧の重要拠点となった白地城などの中世城館跡も残っている。また「青色寺」は、慶長3年（1598）、蜂須賀家政が駅路寺として指定した阿波国内8ヶ寺の一つであり、旅人の便宜を図りつつ盗賊や一揆の監視の任に当たっていた、その当時の文書を所蔵している。

こうした国境では明治の末ごろより香川県で砂糖、綿等の換金作物が姿を消し、水田中心の米作経営に移行していったことから、有畜農家の多かった三好から畜力の必要な香川県へ牛を貸し出す借耕牛が盛んとなり、農作業が終われば米や賃金を払って阿波に帰す、「借耕牛の道」としても夏、秋に賑わったところである。

また、ここは四国霊場六十六番札所「雲辺寺」への遍路道としても利用されており、集落にある「佐野神社」より南下したところに、雲辺寺への山道である遍路道がある。こうして佐野集落は町家として、酒造業を営んでいた「古本家住宅」をはじめ、旅館4件、雑貨屋、飲食店、米屋、呉服屋、床屋、風呂屋などが軒を連ね、賑わいを見せていた地域でもあった。

明治22年には、佐野村・馬路村・白地

村の区域から佐馬地村が誕生し、昭和34年4月には佐馬地村は池田町に編入し、当初の佐野村は池田町佐野となり現在に至る。



借耕牛の様子



曼陀峠にある借耕牛跡の説明板

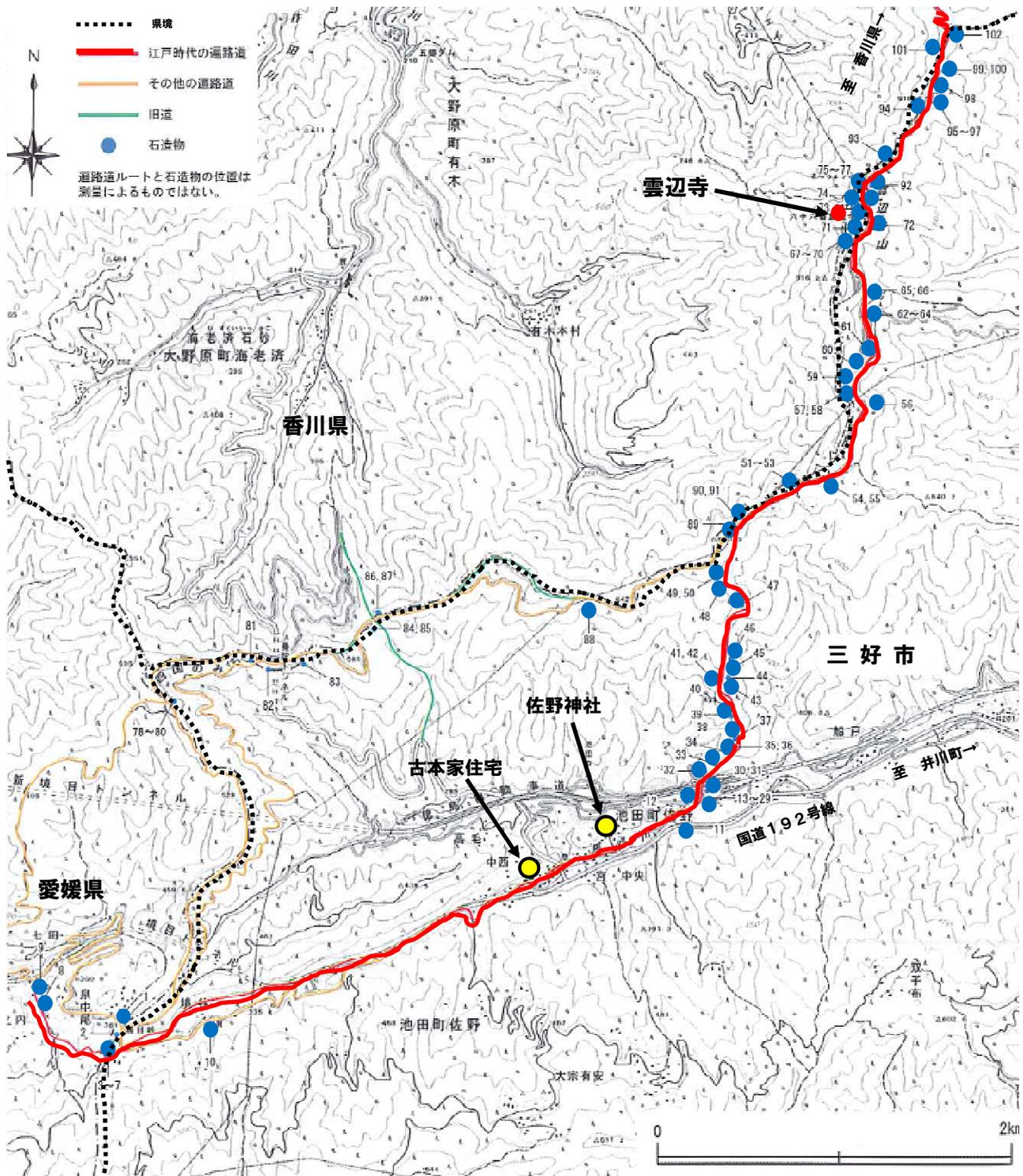


宿場町として栄えた佐野の町並み

## ②地域に見られる歴史的建造物

### ②-1 遍路道と石造物

お遍路さんのルートは下図のとおりで、図示のとおり江戸時代のルートは現在も変わらず利用されている。また遍路の順打ち（1番から順番に四国を右回りに88番札所を巡ること）の場合、伊予街道を愛媛県から徳島県に入って佐野地区より雲辺寺に向かうのが通常である。これを証拠づけるものが、多くの石造物であり、道には丁石や道標などが多く残されており雲辺寺への主要なルートであったと考えらる。



■資料：徳島県教育委員会『阿波遍路道調査報告書』より

遍路道に見られる石造物



■道標：明治34年（1901）作



■地藏：明治35年（1902）作



■丁石※：明治31年（1898）作



■丁石①：江戸後期（年代不詳）

※丁石とは登り道に一丁（109m）ごとに建てて、道のりをしるした石である。  
当遍路道では、丁石①の舟形をしたものが40体中36体と多く見られる。

■資料：徳島県教育委員会『阿波遍路道調査報告書』より